

27年度 県内住宅着工ランキング(本紙調べ速報値)

住宅着工ランキングトップ20

Table with 4 columns: Rank, Contractor, Location, and Construction Area. Lists top 20 construction companies in the prefecture.

本紙は、平成27年度に県内で建築確認が下りた戸建住宅と共同住宅を施工した111事業者の棟数(速報値)をランキング形式でまとめた。県下の新設着工戸数は前年度比同率、持ち家も1.5%微増と着工数に関しては大きな動きはないが、消費税増税特需の反動と地方景気の不透明感から長野、上田、諏訪、須坂、小諸、東御の都市部では前年度を下回り、本紙調べの戸建着工棟数上位10社中でも前年度を上回ったのは3社のみとなった。

パパまる急上昇で上位変動

トップはセキスイハイム信越が堅守

本紙調べ(速報値)による戸建住宅部門では、1位のセキスイハイム信越(松本市)364棟、2位の一条工業(松本市)326棟、3位の飯田市がU建(飯田市)217棟、4位のセキスイハイム信越(松本市)219棟、5位の積水ハウス(大阪市)212棟と続いた。長野市では、東邦建設(長野市)93棟、ヤマウラ(駒ヶ根市)81棟、セリタホームズ(長野市)80棟、レオハウス(東京都)70棟、トヨタホーム名古屋(名古屋)59棟、カクイチ(東京都)58棟、サンプロ(塩尻市)58棟と続いた。

新建新聞

THE SHINKEN PRESS

2016年(平成28年)6月25日(土) 毎月5日・15日・25日発行 購読料:半年12,000円+税

発行所 新建新聞社 http://www.shinkenpress.co.jp

本社・編集部 〒380-8622 長野市南県町686-8 Tel.(026)234-1115 東京本社 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-27 東京ビル5F Tel.(03)3556-5525

購読のお申し込み ☎0800-222-8386(通話料無料)

INDEX

Interview with Shinkensha President Mitsuaki Ono. Title: 「信濃の国」覚え 早く長野県民に. Photo of Mitsuaki Ono.

大手ゼネコン勤務から、住宅業界に飛び込み早4年。この5月、社長に就任し「はやく『信濃の国』を覚え、長野県民にならなくては」と決意する。

県が「新客観点数見直し案」示す 建築士会上伊那が全国大会の切符

64.4% 長野県 合格者割合. Information about the National Architectural Examination.

ステーツ、アイダ、秀光など 県外ビルダーの進出顕著

共同住宅ランキングトップ10

Table with 4 columns: Rank, Contractor, Location, and Construction Area. Lists top 10 joint housing construction companies.

着工総数が300棟以上ある10市1町を対象にわがまの地元トップビルダーをまとめた。長野市は東邦建設が76棟、北信商建57棟、千曲市が長坂建設19棟、セリタホームズ18棟、上田市が千曲建設工業27棟、アクロスホーム24棟、久市が大井建設工業15棟、ハタヤホーム11棟、軽井沢町が新津組17棟、セイケンハウス15棟、松本市がスマイルハウス36棟、アルプスピアホーム31棟、安曇野市がアルブレテホーム20棟、相模組17棟、飯田市がU建築20棟、井坪工務店と丸三建設がそれぞれ14棟、伊那

市がヤマウラ27棟、茅野市がエクセレントホーム23棟、フォレストコーポレーション10棟。共同住宅部門では、大東建設が前回より30棟減らし、124棟で連続首位。2位が大和ハウス工業104棟(23棟増)、3位積水ハウス42棟(15棟減)の順で変動なしとなった。県内の27年度住宅新設着工戸数は、消費税増税特需の反動が続く、1万805戸と前年と変わらず。県内のハウジングセンター販売担当

当者も「年明けは10%間近」といって、春頃にはムードが鈍くなった。すように、消費税増税が4月から2年半の再延滞確定したことで地方景停滞、不透明感、国政移行も住宅産業に影響を与えた。また、近年県内の住居にハウスメーカー系の県外ビルダーの進出立。前記のパパまるハスなど、松家グループ(松本市)39位、ヤマウラ(長野市)24位、高崎(群馬)24位、東京(東京都)24位、日本ハウズホールディング(24棟、東京都)と続く。野市に今営業拠点を置いた秀光ビルド(加賀市)は、北陸を拠点に西日本体で前期2500棟を達し、今後県内市場の台目となりそうと見込めた。



取る平穏土建の滝沢みづきさん

建設業の新入社員研修



研修生を代表してあいさつする木下組の島山和也さん

加藤の専門工業者から参加がある。一昨年度は50人規模で実施していたが、昨年に参加者が倍増。今年も定員いっぱいとなり、人材を大切に育てていくと各社の姿勢があらわられた。8日朝の開講式では高木正雄副会長が「建設業界の経営環境は厳しく、担い手の技術者は不足している。だからこそ現状を打開する若い力が必要」と発言。来年度の目標を掲げながら成

はばたけ！若い力

わがまちの地元トップビルダー

新連載 測る・描く・守る

地理空間情報高度利用社会の実現に向けて、そのプラットフォームの整備を担い、国土を測り、描き、守り続けている国土院からの寄稿を新たに連載します。深化した測量の姿と進化し続ける地理空間情報の「いま」と「これから」を読者の皆様にお伝えします。ご期待ください。(今号3面)